

令和5年度各課等におけるステークホルダーからの意見（要望）等とその取組計画等調査

★「ステークホルダー」とは、企業等の経営行動などに対して直接・間接的に利害が生じる関係者（利害関係者）のことをいう。
具体的には、学生、保護者、同窓生（会）、役員・教職員、校友会、患者様、自治体等、就職企業先、業者等、地域市民一般、その他関係者（海外）など。

令和7年3月31日

整理番号	課名等	事業等	意見聴取対象者	意見聴取の方法	実施年月日	大学運営に有効活用できると思われるニーズ（要望）等	各課等における取組状況及び取組計画	取組計画等への対応状況
1	広報室	佐賀大学広報誌「かちがらす」第48号読者アンケート （広報誌についてご意見・感想）	佐賀大学広報誌「かちがらす」第48号読者アンケート回答者	アンケート （185名）	令和4年3月1日～ 令和5年9月30日	○取り上げてほしいテーマ ・鍋島キャンパスについて ・サークルの紹介 ・活躍する女性について ○意見・感想 ・プレゼントの Катчерくんグッズが気に入ります ・広報誌を通して大学のことがよく分かる ・大学を身近に感じることができる ・保護者として佐賀大学を誇りに思う	・ご意見は担当部署へお知らせします。 ・いただいたご意見を精査し、可能なものについては広報誌、HPへ反映するよう検討します。 ・リクエストの多いテーマは、今後積極的に取り扱います。 ・読者の目線に立った誌面作りに取り組み、本学の取り組みや学生の生活をより感じられるよう努めます。 ・プレゼントのグッズは、 Катчерくんをモチーフとして毎月刷新します。	・本学の新たな取組が伝わるように、令和6年度に設立したウェルビーイング創造センターの特集を掲載しました。 ・鍋島キャンパスについてのテーマについては、医学部臨床実習コーディネーターチームの設置について特集しました。 ・読者プレゼントのグッズは、毎月、 Катчерくんをモチーフとしたグッズ（エコバッグ、ステッカー等）を制作し、当選者に送付しました。
2	広報室	佐賀大学広報誌「かちがらす」第49号読者アンケート （広報誌についてご意見・感想）	佐賀大学広報誌「かちがらす」第49号読者アンケート回答者	アンケート （202名）	令和5年10月1日～ 令和6年2月29日	○取り上げてほしいテーマ ・学食メニューと学生の食事情 ・就職先と就活事情 ・学部の特徴と授業風景、研究内容 ・大学が誇る独自の機械設備 ○意見・感想 ・遠方に住んでいるので、広報誌から子どもの生活が想像できて助かります ・先輩メッセージは親も勉強になります	・ご意見は担当部署へお知らせします。 ・いただいたご意見を精査し、可能なものについては広報誌、HPへ反映するよう検討します。 ・リクエストの多いテーマは、今後積極的に取り扱います。 ・誌面から大学生活を感じられるような企画や記事を掲載するよう取り組みます。 ・卒業生へのインタビューは若手に限らず、より幅広い年齢層で、かつ様々な業種で活躍する方を選定するよう努めます。	・リクエストのあったテーマの一つである「就職先と就活事情」については、「社会で輝く先輩からのメッセージ」として幅広い業種で活躍する卒業生にインタビューを行いました。 ・大学生活がより感じられる誌面になるよう、学生広報スタッフが編集するページ「イキイキ佐大生」では、写真を多く掲載し、活躍する学生団体を同じ学生の目線で伝えられるようなページにしました。
3	広報室	教職員アンケート	佐賀大学教職員アンケート回答者	アンケート （151名）	令和5年9月20日～ 令和5年9月30日	①広報誌で取り上げて欲しいテーマ ・職員とその業務、仕事の裏側 ・新任教員・職員の紹介 ②SNSの効果的な利用について ・災害時（休講）の情報発信 ・ショート動画を使った情報発信 ③制作で欲しい広報用グッズ ・横断幕やのぼり、テールクロスなどのイベント用グッズ ・ Катчерくんのぬいぐるみ ・オリジナル文房具、菓子類（土産用） ④制作で欲しいデジタル素材 ・ Катчерくんの画像素材 ・オリジナル名刺、スライド、背景素材 ・LINEスタンプの続編 ・学内の風景・施設・校舎の写真 ⑤効果的にPRできる企画やアイデア ・オリジナルグッズの販売 ・テレビCMやネット広告の利用 ・分かりやすい学内案内表示の制作	①リクエストの多いテーマは、今後積極的に取り扱います。 ②災害時（または災害が予想されるとき）は、注意喚起いたします。また、ショート動画の利用は、現在学生広報スタッフと企画しています。 ③予算の範囲内でリクエストの多いグッズから制作いたします。 ④学生広報スタッフと連携しながら、リクエストの多い素材から随時更新いたします。 LINEスタンプは第3弾を制作しました。今後も続編を制作予定です。 ⑤グッズの販売に関して、現在大学生協様とライセンス料をお支払いいただく方向で詳細を詰めています。 テレビCMは高額なため、SNS上でオープンキャンパスや出願の時期に合わせて広告を展開しています。 目的の場所までスムーズに到達するためのナビゲーション（道案内）アプリを企画・制作しました。	①いただいた内容は、誌面の都合上、まだ採用できていませんが、今後のテーマの参考とさせていただきます。 ②災害時には注意喚起等の発信を行う予定です。ショート動画については、現在、学生広報スタッフと内容を検討しています。 ③ Катчерくんグッズとしてリクエストのあった、横断幕、のぼり、及びテールクロスは、グッズとして貸出を開始しました。 ④デジタル素材としては、オリジナルの名刺テンプレートを作成し、ホームページからダウンロードできるようにしました。学内の写真については、随時写真のストックを増やしている途中で、今後、教職員が自由に利用できるように整備予定です。 ⑤分かりやすい学内案内表示については、専用アプリ「 КатчерNAVI」を整備し、令和6年度には鍋島キャンパスも実装しました。オリジナルグッズとしては、学生広報スタッフがデザインした Катчерくんのマグカップを新たに制作・販売しました。
4	広報室	来てみんしゃい佐賀大学へ企画	来てみんしゃい佐賀大学へ企画参加者	アンケート （142名）	令和5年7月～令和5年12月	・佐賀の中小高生にとってより身近な企画をお願いしたい。 ・普段見たり触れたりすることがない資料や機器を体験できるのは嬉しい。 ・大学と地元自治体や民間企業が連携した企画は大きな意味がある。 ・大学の分析力、若い人達の自由な発想や考えで地元の問題を解決してほしい。 ・イベントを通して佐賀の現状を知ることができた。 ・幼児や小学生向けのイベントがあると嬉しい。	いただいたご意見は、今後の企画選定の際の選定基準として大いに活用いたします。	・「来てみんしゃい！佐賀大学へ」企画は、本学に親しみを持っていただくという目的が十分に達成され一定の成果を挙げたものと判断して終了しました。 ・令和6年度からは文科省が推進する「こども見学デー」に合わせて、対象を小・中学生に設定した企画を募集することとし、以下の2つの企画を実施しました。 1. 佐賀大学学長にインタビューをしよう！（ダイバーシティ推進室） 2. 唐津にある佐賀大学農学部ではどんな研究をしているの？（アグリ創生教育研究センター）

整理番号	課名等	事業等	意見聴取対象者	意見聴取の方法	実施年月日	大学運営に有効活用できると 思われるニーズ（要望）等	各課等における取組状況及び取組計画	取組計画等への対応状況
5①	総務課渉外室	第12回ホームカミングデー	ホームカミングデー参加者 （佐賀大学卒業生、名誉教授）	アンケート （64名）	令和5年10月28日	大学祭と同時開催での効果があったのか？何とも言えない。 現役学生も参加できるような企画が必要では。	・同時開催でしたが参加者は、考えていたほど増えませんでした。今後も同時に開催することとして、大学祭中央実行委員会と連携して、現役学生も参加できる内容のものを企画します。 ・支援した学生や同窓生である教職員への案内方法について、工夫して実施したいと考えています。	・第13回ホームカミングデーでは、大学発ベンチャー講演会として、在学生による起業した企業活動の取り組みについて講演していただいた。参加者アンケートでは、「学生時代に起業した若者たちの話を聞いて、嬉しく思いました。私も元気をもらいました。」「起業する学生に、基金を集めて支援することが必要と感じた。」などの意見をいただき好評を得ました。
5②	総務課渉外室	第12回ホームカミングデー	ホームカミングデー参加者 （佐賀大学卒業生、名誉教授）	アンケート （64名）	令和5年10月28日	校友会にはグラウンドを含むスポーツ施設の整備支援。 スポーツ施設（グラウンド）の整備（車の入場禁止）をお願いしたい。	校友会の事業は、大きく学生支援事業と校友間交流事業がありますが、新たにスポーツ施設の整備支援の経費を確保するのは厳しい状況にあります。 スポーツ施設を管轄している担当部署にご意見は伝えます。	・校友会の事業予算のなかから、スポーツ施設の整備について支援経費を確保するのは難しかったため、学生支援部署にはご意見は伝えました。今年度は施設整備事業により、かねてより改修の要望がありました本庄地区体育館の大規模改修を実施しました。
6	教育企画課	授業評価アンケート	授業履修者	アンケート	各学期授業期間終了前～終了後の3週間程度	就職活動に対する支援をもっとしてほしかったと感じた。	佐賀大学ウェルビーイング創造センターキャリア支援部門では、就職ガイダンス、会社説明会、就職相談といった就職支援を行う。	佐賀大学ウェルビーイング創造センターキャリア支援部門では、以下の就職支援を行っている。 ●〈就職ガイダンス〉 エントリーシートの作成講座や面接対策等、様々なテーマの就職関連セミナーやイベントを実施する。 ●〈個別会社説明会〉 採用広報活動解禁後の3月から7月の間にかけて、翌年の卒業生を対象として個別の会社説明会を学内で開催する。 ●〈就職相談〉 「就活について何から考えればよい？」「自分って何をやりたいんだろう？」「自己分析ってどうやるの？」といった、まだ自分の就活が形になる前の悩みから、「面接練習をしたい」「履歴書の添削をしてほしい」「求人情報を見たい」などの希望まで、一人一人のステップに応じた相談を対面・オンラインで受け付ける。 民間企業就職希望者だけでなく、教員や公務員を志望する学生も対象としている。 上記の就職支援情報は就職活動のスケジュールに合わせて対象となる学生に向けてメールで配信したほか、キャリア支援部門公式Teamsで相談予約状況のほか、就職活動に役立つ情報を発信した。
7	教育企画課	卒業（修了）予定者を対象とした共通アンケート	卒業（修了）予定者	アンケート	各年度12月～2月末	佐賀大学に給水スポットを設置し、マイボトル利用を増やしたい。	教養教育1号館1階学生ホールにウォーターサーバーを設置する。	令和5年12月に教養教育1号館1階学生ホールに、令和6年9月には経済学部1号館学生談話室にウォーターサーバーを設置した。 現在多くの学生・教職員が利用している。
8	社会連携課	T S U N A G I プロジェクト	佐賀県庁	佐賀県・佐賀大学連携調整会議 等	令和5年度	令和元年より毎年実施している佐賀県・佐賀大学連携調整会議において、本学の取組等の情報共有を行ってきた。 本学の取組の成果が認められ、より強力に佐賀県内の地域課題の解決や県内の産業・学術の振興を図るため、令和4年度より佐賀県による研究支援事業「T S U N A G I プロジェクト」が実施された。 令和5年度は、継続事業が13件、新規事業が10件の計23件が採択されている。	・今後も「T S U N A G I プロジェクト」を実施していくために、佐賀県・佐賀大学連携調整会議等で本学の取組について情報共有を継続する。	令和5年度は令和5年7月19日に第7回、令和6年2月13日に第8回の佐賀県・佐賀大学連携調整会議を実施し、支援いただいているプロジェクトの一部について教員より進捗の報告を行い情報共有を行った。
9	芸術地域デザイン学部	学部後援会評議員会	学部後援会評議員（学生の保護者）	対面会議（外部8名）	令和5年8月26日	学生のためのトイレ等環境整備（カルミック）については他の学部の状況を参考にしながら 大学に負担してもらいたい	次回の学部後援会評議員会に大学で負担可能か、他の学部の状況を参考にし回答します。	令和6年8月31日開催の後援会評議員会の予算・決算報告の中で後援会による負担について御了解いただきました。
10	医学部医事課	患者満足度調査	患者様	アンケート	外来 令和6年1月29日（月）～2月2日（金） 入院 令和6年1月29日（月）～2月9日（金）	患者様の視点から見た病院運営の在り方について活用できると考えられます。	・アンケート結果については、病院内会議に報告するとともに、改善に向けた対応策を検討していきます。 ・また、アンケート結果は職員に周知するとともに、病院HPにて公開します。	・患者待ち時間対策として、外来呼出しシステムSMSサービス利用促進を行った。 ・計算窓口の混雑緩和のため、今年度より「指定難病・小児慢性」の更新時期に特設窓口を開設した。

整理番号	課名等	事業等	意見聴取対象者	意見聴取の方法	実施年月日	大学運営に有効活用できると 思われるニーズ（要望）等	各課等における取組状況及び取組計画	取組計画等への対応状況
11	医学部医事課	ご意見箱	患者様及びその関係者様など	ご意見箱	常設	患者様及びその関係者様など外部等の視点から見た病院運営の在り方及び病院サービス向上について活用できると思われます。	ご意見箱のR5意見対応 ①駐車場が病院建物から遠い。 →病院建物付近に立体駐車場を増設し、令和5年10月から運用開始した。 ②院内レストランを再開してほしい。 →令和5年7月から院内レストランをリニューアルオープンさせた。	対応済み
12	総合情報基盤センター	通信環境の満足度調査	学生	アンケート (Microsoft365のFormsを利用)	令和6年2月1日～ 令和6年2月15日	本調査回答期限がアンケート期間中であることから、次回調査時までに整理する。	聴取した要望を整理し、令和6年度において取組む予定	アンケート調査の結果、キャンパスネットワークシステム更新をしたことにより「概ね改善した」・「改善も悪化もしていない」という意見が大半であるが、中には無線LANの繋がりにくさが更新により「悪化した」・「更新により大いに悪化した」との意見も少数であるが存在した。特に、繋がりにくさの意見が存在するところは、引き続き、現場環境について詳しく調査を行い、アクセスポイントの追加設置を検討するなど、改善のための環境整備予算確保を行い対応する。 (※R7.3 医学部付帯施設棟 アクセスポイント追加設置を予定)
13	総合分析実験センター	来てみんしゃい佐賀大学へ 企画参加者	「来てみんしゃい佐賀大学へ」企画 身近な遺伝子の世界を体験しよう	アンケート (15名)	令和5年8月5～6日	(高校生による回答) ■今後参加したい内容 ①模擬実験、②大学の研究室見学、③施設見学、④簡単なプログラミング実習、⑤芸術実技、⑥トピック・話題に関する講演 ■意見、感想 ・学校では使わない機械を使うことが出来た ・普段体験できない、難しい装置を使って、長い時間を費やして研究でき、やりがいを感じた ・知識としては知っていた電気泳動やPCR法を、実際に自分の手でやってみることで、その仕組みをより理解することができた ■企画を知った要因 ①各学校に掲示されたポスターやチラシ ②先生からの勧め	・実際に手を動かして実験したり、高校まででは使わない(学校に無い)研究機器を使うことに高い興味があるようなので、引き続き、次年度以降の実習内容に取り入れていきたい。 ・本企画をポスター、チラシといった配布物で知ることが多いようなので、次年度以降も、引き続きポスター等の作成や送付を行いたい。	2024年7月27日に「夏だ！科学だ！研究だ！サイエンスワークショップ」を高校生対象に開催した。10名定員のところ9名の参加があり、実際の研究現場で使われている研究設備（走査電子顕微鏡、細胞自動解析装置）を高校生が操作して、研究の一端を体験していただいた。 前年度までは、広報室の「来てみんしゃい！佐賀大学へ」の企画として開催していたが、今年度はこの企画が無かったため、急速、部局費で開催した。開催方法等、次年度以降の検討事項とした。
14	海洋エネルギー研究所	オープンラボ	一般市民、研究者等	アンケート (66名)	令和5年7月22日	・参加目的の動向 「エネルギーや環境問題に関する学習」が多く、「実物が見学できたことは大変有意義な経験となった」「常に質問できる環境がよかった」「仕組みがよくわかった」などの意見が見られた。 ・来場のきっかけ 「ポスター」「HP」が多く、「テレビ」からの来場が少なかった。	アンケートの要望を今後の企画、イベントの方法に活かしている。具体的には、展示方法、説明方法、子供が楽しめる参加型イベント等。 また、今回より伊万里市の協力で市内の小学生全員にチラシの配布を行うことが出来た。来年度も伊万里市と協力して周知活動を行う予定。	・アンケートの要望を取り入れ、2024年度開催のオープンラボは前回とは催しの開催場所や待ち時間の短縮などに努め、子どもが楽しめるよう改善し概ね好評であった。 ・絵はがきコンテストに参加していただいた小・中学生には今年度は新たに参加証を進呈したが大変喜ばれた。 ・伊万里市役所と協力し、伊万里市内の校長会で絵はがきコンテストの告知案内を行ったことで、学校単位でのコンテストの参加につながった。 ・伊万里市役所の協力で、伊万里市内の各学校にチラシを配布
15	海洋エネルギー研究所	見学会・視察	一般見学者、企業、自治体、研究者	アンケート	申し入れの都度、随時	・企業との共同研究を拡大する努力を続けてください。開かれた研究所として、広く国民に更にPRをされてください。 ・口頭の説明だけでなく、実際の実験装置を用いながら説明していただいたので、スムーズに理解することが出来ました。 ・もっと多くの人にこの研究を知ってもらうため佐賀県内でイベントを開いたり、積極的にいろんなアイデアを出して宣伝していくことで、研究をいいものに作り変えてくれると思います。	アンケートの要望を研究成果の展示方法、HPやSNS等での情報発信、運営に活かしている。具体的には、対象者に合わせた説明方法、受入環境、研究成果の社会実装など。	・伊万里市および久米島町と連携し、小学生交流授業や施設見学会を開催。 見学会の受入環境および態勢については検討中。 ・県内、県外を問わず中学校やSSH事業を伴う高等学校の研究等の受入を実施。
16	企画管理課	本庄キャンパス駐車場整備事業 (本庄地区構内交通規程の改定)	学生・教職員	電話連絡、施設マネジメント委員会、ライブキャンパス、一時利用現地アンケート、佐賀大学からのお知らせ他	令和5年3月9日～ 令和5年11月8日	駐車場がほぼ満車状態のため、入構バスカード交付者の駐車に支障をきたしている。	台数調査の結果、一時入構券を利用した通勤・通学者が全体の4割を占めていたことから、一時入構料金に関する本庄地区構内交通規程の改定（令和6年4月1日～：200円/24時間→100円/1時間）を実施した。抑制効果については令和6年度からの検証とする計画である。	各月の最も入構台数が多い時間帯を比較したところ、令和5年度に対して、1日当たり平均166台（▲19%）ほど利用台数が減少した。うち一時入構率は平177台（▲57%）減少した。 現在、一時入構車両を抑制した事により正規バスカード利用者が駐車できないという状況は解消されているが、2年目以降も引き続きデータ解析を行って、駐車場不足が生じていないか注視していく必要がある。

整理 番号	課名等	事業等	意見聴取対象者	意見聴取の方法	実施年月日	大学運営に有効活用できると 思われるニーズ（要望）等	各課等における取組状況及び取組計画	取組計画等への対応状況
17	企画管理課	トイレ改修整備計画 （トイレの洋式化）	教職員	打合せ	令和4年3月～	衛生面や利便性並びに時代のニーズに合わせ、建物内に残っている和式トイレを洋式化してほしい。	令和4年3月にトイレ改修整備計画（洋式化：102基）を策定し、令和5年度末時点での整備率は17基・16.7%である。令和6年度以降も段階的に整備していく計画である。	令和6年度末時点での整備率は23基・22.8%である。令和7年度以降も段階的に整備していく計画である。
18	企画管理課	ネーミングライツ事業	教職員 企業	施設マネジメント委員会 複数の企業からの要望等	令和5年～（学内調整等） 令和6年～（募集開始）	従来のネーミングライツよりバリエーションを増やすことで様々な規模の企業・団体様に対して学生の学習・生活環境の向上への面での多様な財源の増加を図れないか。 企業アビールや佐賀大学生のリクルーティングのためにネーミングライツを行いたい。	建物、室及び外部空間のネーミングライツ事業を新設し、その事業パートナーを募集する。	・令和6年4月からネーミングライツ事業（建物単位：10施設、室単位：166室、外部空間：12施設）のパートナー募集を開始した。 ・令和6年8月に3社のパートナー企業との契約を皮切りに、令和6年度内に10社（2年契約1社、3年契約3社、4年契約1社、5年契約5社）との事業契約を締結し、令和7年度においては年間約520万円の財源を得ることとなった。